

# 甲斐市立竜王南小学校 平成25年度 後期学校関係者評価書

平成26年2月24日

竜王南小学校関係者評価委員会

記載責任者 学校関係者評価委員 志村 秀剛

## 【第1回 学校関係者評価委員会】

- 1 実施日：平成26年2月21日(金)午後7時30分～
- 2 会場：会議室
- 3 参加者：学校関係者評価委員

学校評議員(4名)			
梶原照夫	込山伸一	河野良夫	鶴田重雄
PTA役員(4名)			
会長	副会長		
志村秀剛	山王正徳	古久保恵理子	秋山和彦
学校職員(4名)			
校長	教頭	主幹教諭	生徒指導主任
太田 充	内藤和彦	小西一彦	西川孝雄

出席者 計8名

欠席者 計4名

- ・込山伸一
- ・河野良夫
- ・山王正徳
- ・古久保恵理子

## 4 学校側から提案された内容

○学校評価アンケートの分析について

- (1) 教職員自己評価の結果
- (2) 本校児童アンケートの結果
- (3) 結果概要説明

## 5 協議内容・意見

### ○竜王南小学校前期自己評価書に関する考察

(教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証)

#### (1) 学校側から提案された全体評価考察

昨年度は、後期学校評価において、家庭や地域との連携については「教育の見える化」「教育の透明化」を常に念頭に置くことが確認された。よって、学校行事等において、より具体的に伝わるよう写真やイラスト、パワーポイントなどを使い、より周知徹底を行うことを改善してきた。また、HPによる発信を積極的に行い、保護者や地域の理解をさらに深め、学校へ協力してもらえる体制を改善していくことを確認し、実行に移してきた。

前期の評価において、昨年度の成果が随所で見られるようになってきたことが挙げられた。2学期は、運動会、授業公開、音楽集会などの学校行事や校外学習、ゲスト授業などで「楽しい学校」「楽しい学年」「楽しい学級」をめざして、精力的な取り組みが職員一人ひとりに見られたといえる。特に、Q-U分析から学級経営改善を図るとともに、工夫した授業、教材教具の開発など児童が興味関心をもって、主体的に活動していける取り組みが行われた。さらに、特別支援教育視点からの児童理解も職場全体に浸透し、児童指導のみならず、保護者対応にも誠実に、スピーディに対応していく姿が見られた。こうした職員の努力が「落ち着いた、安心なクラスを」築き上げ、児童の出番と居場所が確保されたのではないだろうか。昨年度からの取り組みが成果を挙げつつあると、数字的にも表れてきたといえる。こうした取り組みは、PTA活動や保護者-地域への理解にもつながり、学校-保護者-地域との連携の定着に近づいているといえる。

#### (2) 意見交換(参加者からの提言等)

##### I 平成25年度 甲斐市立竜王南小学校「学校評価」の経過

###### ・ Q1「後期の自己評価日程は、どうなっていたのですか？」

後期日程が表記されていなかったため、11月後半-12月にかけて自己評価を行い、データ化されたのが1月中旬であったとを説明した。指摘があったので、後半部のデータを表記し、追加した。

##### II 各項目ごとの評価

###### 2 学校運営について

「2 あなたは、危機管理(防犯, 防災, 事件, 事故等)マニュアルを理解している。」

###### ・ Q1「DランクC評価が増えた原因は何ですか？」

新聞報道等で、危機管理に関するニュースが紙上を賑わしている。本校でも、新聞切り抜きを職員に提示し、常に職員に対して危機管理の重要性を説明している。2学期以降も成績漏洩、いじめ、体罰等のニュースが飛び込んできている。

職員もこうした状況に対して、危機感を覚えたという声が出ている。また、今年度は、不審者対策学習会を開催するなど幅広い訓練及び学習会を進めてきただけに、不安を抱いたと考えられる。自己評価結果にも「細かいところとなると、不十分なところもあると思う」「具体的な理解が足りないため、マニュアルを再度、確認する必要があると感じた」という意見が寄せられていただけに、職員一人ひとりの危機意識が高まってきたと考えられる。

###### ・ Q2「DランクC評価が増えた原因に対する改善方法はどのようにしていきますか？」

今年度の防災訓練等の反省をもとに、実際の危険等発生時を具体的に想定し、危機管理マニュアルを見直していくことをまず第一に取り組んでいかなければならない。平成26年度教育課程計画に本校は学校安全の章を設けているので、学校安全全体計画、学校安全計画を作成するとともに、より効果的な防災訓練等の計画をマニュアルに沿いながら、計画していかなければならない。

来年度も警察署や消防署との連携による訓練実施、保護者参加型の学習会なども現在計画之中であるので、見直しを図りながら、児童-保護者-地域-職員が連携して取り組んでいける計画を進め、さらに危機管理に対する意識を高めていきたいと考えている。

個人情報に関しても、職員の意識を高め、未然に防止する体制を構築し、ふだんより実例を挙げながら危機意識を持たせる取り組みを進めながら、その一方で、セキュリティ強化を図らなければならない。

## 6 学校の特色に関して

### 「2 授業参観や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している。」

#### Q1「100%になった理由は？」

2学期は、運動会、陸上記録会、音楽集会、個別懇談等学校行事がたくさん計画され、保護者と接する機会も多かった。今年度は、「月に1度は、学校へ保護者が足を運んでくださる体制」を重要ポイントとして年間計画に導入してきた。1学期は、道徳公開や学級懇談会も新しく開催し、職員も保護者の積極的な参加に驚くとともに、コミュニケーションがとれたことで、学校開放の良さを感じたのではないだろうか。

来年度の計画提案の際に、職員から学級懇談会を低・中・高ブロックで分けて、参加人数を増やし、じっくり話し合いを進めていきたいという意見が挙がったことから、必要性を感じ取っていることが伝わってきた。学校長の「毎日が学校開放日」という言葉通り、保護者や地域に学校の様子を見ていただき、共有意識をお互いに持っていくことが今後更に重要になっていくと考えられる。

### 保護者アンケート「16 お子さんのことで相談できる先生がいますか」

#### Q1「相談できる先生が増えた理由は？」

昨年度より特別支援教育体制及び生徒指導体制を強化してきたことが影響していると考えられる。課題を持った児童に対して、その背景及び原因を考え、児童理解を中心に指導を進めてきたことに成果が現れてきたのではないだろうか。

表面では、課題の見えにくい児童に対してケース会議等で話し合い、更に必要があれば、保護者との相談、相談機関との連携を試み、一つ一つのケースを丁寧に、素早く対応してきたことが良かったのではないだろうか。

本校には、スクールカウンセラーが月曜日に勤務する態勢になっているが、この2年間で、児童や保護者の相談件数が伸びてきている。PTA総会やHPでの呼びかけの効果もあるが、信頼できる相談体制が作られつつある。スクールカウンセラーは、児童観察、担任へのアドバイス、学習会講師など幅広く活動していただいている。職員のアドバイスを通じて、児童理解の必要性を学んできていると考えられる。

### 関連:「関係者からの意見・感想」

グリーンカーテン撤去作業の際に、ある児童を注意した時に「そんなことをすると怒られてなぐられるぞ」と言ったら児童は「そんなことをしたら、ぶっとぶよ」と応えたというエピソードが関係者から出された。その時に、その児童の保護者が得意そうに「ぶっとぶとは、体罰でクビになることですよ!」と解説していたということに保護者がそのような態度で考えていることに驚きを隠せなかったと述べていた。

児童ではなく、保護者に問題があるように見られるが、なかなか解決していくことは多種多様な価値観を持っている現在では難しいと思われる。これからは、たくさんの人たちが交わり、考えていくことが必要であり、その中で共通理解していくことが大事ではないだろうかという意見が出された。

学校行事が増えてきたことは、とてもよいと関係者から意見が出された。

保護者にとって教師の人柄が一番安心できる。そのためには、お互いが情報を交換し、接していくことで保護者も学校とつながっていくのではないだろうか。その意味では、学校行事が増え、学校へ訪れる機会が増え、少しでも先生たちと話が出来ようになってきたことは、よかったといえる。

保護者も、役員も少しずつ協力して、共通理解を図っていかなければならない。来年度は、学年レクを取り入れ、児童-保護者-教師が互いに打ち解け会える場を作ってもらい、情報交換していきたいと考えているという意見が出された。(干し芋づくりをPTAと連携して進めていきたいという意見も出された。)

学校のみならず、保護者も積極的に協力していかなければならない。運動会では、まだまだ校地内禁煙飲酒禁止が守られていない。減少してきたとはいえ、保護者もルールを守っていかなければならないという意見も出された。



### 結論

学校-児童-保護者-地域が一つになって、共通理解していける関係を持つことが大事である。そのためには、開かれた学校づくりを推進し、より保護者や地域に学校を理解してもらえよう努力をしていかなければならない。関係が良くなることで、教師も保護者や地域のニーズを知り、相談できる体制、児童理解体制がより深まり、楽しい学校(楽校)の創造へ近づけるのではないだろうか。

## その他

### ・「ICT教育の推進について」

これからはICT教育がより進められていくと考えられる。進められていくことで、より便利でわかりやすい授業展開も可能となっていくが、その反面、危険性も潜んでいると考えられる。

①成績などもよりソフト化され、便利になっていくが、便利になる以上にセキュリティの強化、工夫をすすめていかなければならない。

②タブレットやデジタル教材の普及が予想されるだけに、受け入れていく環境や体制を常に念頭に置き進めていかなければならない。

③ALTとともに進めていく英語教育も今後は、さらに重要なポジションを占めていくことが予想されるだけに、体制や指導方法の工夫、指導力アップを考えていく必要がある。